

Vol.8(1) 1997



## ヘール・ボップ彗星

天文ファンのみならず多くの人々を魅了した今世紀最大の彗星“ヘール・ボップ彗星”。3月22日には地球に、4月1日には太陽に最接近しました。夜明け前にしか見れなかった彗星も、4月には日没後、北西の空でその姿（写真：中央右）を見ることができました。この雄姿に再び会えるのは、およそ2400年後です。

1997年4月10日 19時40分頃 露出1分 撮影地：大野市寺月峠 撮影者：井部 極 メモ：中央左で明るく輝く星は三日月



福井県自然保護センター



## 重油流出に伴う海鳥類の救護活動

文・写真 大迫義人（福井県自然保護センター）

今年、正月明け早々、福井県を含めた北陸地方は大変な災害にみまわれました。日本海に沈没したロシア船籍のタンカー“ナホトカ号”から流出した重油による海域の汚染です。本県では、すぐに災害対策本部を設置し、その一つとして海鳥類の救護を行なうことになりました。自然保護課を中心に、県獣医師会、野鳥の会県支部、自然観察指導員協議会などの協力を得て、「救護・回収」－「洗浄・治療」－「リハビリ」－「搬送・放野」の体制をとりました。

漏れだした重油は潮流と季節風にあおられて東へ漂流し、ついに1月7日、福井、石川県境付近の海岸に漂着しました。石川県では8日にウトウが、福井県では翌9日にミツユビカモメが重油汚染の被害を受けて救護されました。

7年前に隣県の京都府で座礁したりベリア船籍の貨物船の事故では、本県も重油の被害を受けましたが、こんな大事故は初めてです。獣医師といえども、また、鳥類の識別や生態の知識があった私でも、汚染された水鳥の洗浄、治療、リハビリについては全くの素人でした。しかし、幸いなことに、湾岸戦争での流出重油の被害を受けた水鳥の救護を経験された、川崎市の獣医師馬場国敏氏がかけつけて下さり、私たちは氏の指導を仰ぐことができたのです。

汚染された海鳥は頭から尾の先まで真っ黒の状態で、この様子を見る限り、とても油を落とせるとは思えませんでした（写真1）。しかし、まずは、台所用の中性洗剤の入った約39℃のお湯で丁寧にかつ徹底して洗浄しました（写真2）。次に、1～2時間かけてドライヤーや白熱電灯で乾燥しました（写真3）。すると、見間違えるほどきれいになりました（写真4）。その後、海鳥たちが落ちついたところで、ワカサギやイワシを与えました。何日も絶食している海鳥の中には、そのままでは食べないものもいました。こういった海鳥には、ミンチ状にした魚と栄養剤をチューブを使って、強制的に給餌しました。



写真1 油まみれのウミスズメ



写真2 洗浄されるウミスズメ

洗浄、治療が終わっても、羽毛が痛んでいるため、飛んだり浮いたりすることはできません。一日中水上で生活している海鳥類にとって、水面上に浮かんでいられないことは致命的です。そこで、羽毛のはっ水性をとり戻すために、毎日3回、2m四方のプールで泳がせては羽づくろいをさせました(写真5)。このリハビリには早いもので1週間、回復の思わしくないもので3週間かかりました。

自然保護の立場では、救護された動物は、元の場所へ戻すことが基本です。しかし、当時、日本海にはまだ重油が残っており放すことができませんでした。そんな折り、全日空の協力で、汚染のない北海道に無料で空輸してもらうことができました。その後は、北海道庁や野鳥の会により苫小牧市の勇払海岸で放されました。

嵐のような1月、2月から3ヶ月が経ち、救護される海鳥類はいなくなりました。しかし、まだ事故は終わっていません。食物連鎖による有害物質の濃縮、大量死や羽毛の重油付着による繁殖への影響など、海鳥類への長期におよぶ影響が予想されます。当センターでは、まだ気の抜けない毎日です。

最後に、今回の救護活動では、多くのボランティアの皆様にご協力いただき、また、全国から暖かいご支援・お見舞いをいただきました。心から厚くお礼申し上げます。

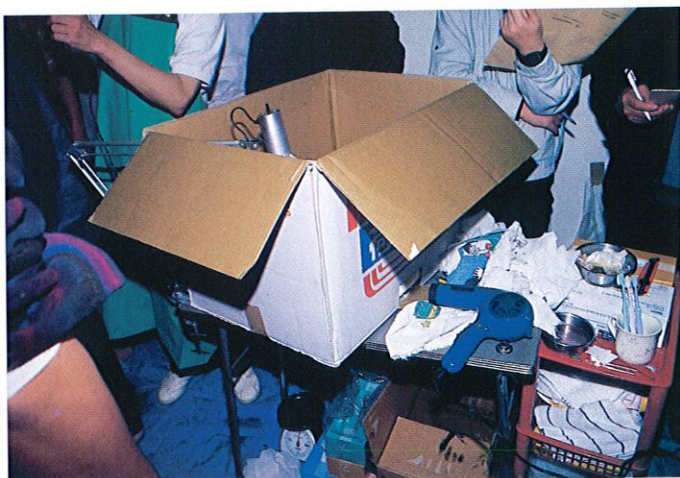


写真3 ドライヤーと電灯を使っての乾燥



写真4 きれいになったウミスズメ



写真5 元気に泳いでいるハジロカイツブリ

# 海鳥の救護活動に携わって

当センターでは、ウミネコやオオハムなど9種、42羽の海鳥が保護飼育されました。これら海鳥の救護活動に、日本全国から大ぜいのボランティアの方々が集まりました。その中から3人の皆さんの感想を紹介します。

## ◆海鳥が教えてくれたもの



御子柴 友子 (京都市東山区)

10代最後の今年、私は貴重な出会いを経験しました。重油流出事故のため、全国から協力を申し出たボランティアの皆さんとの出会いです。

私がお世話になった先生方の一言一行は、難しい本を何十冊読むよりも価値があり、そして心に残るものでした。また、海鳥と過ごした日々は、私にとってかけがえのないものになりました。

私は海鳥の救護にあたったわけですが、何日も人間の監視下で生活している鳥を見て、悲しさと恐ろしさで胸がいっぱいになりました。鳥たちは全てを知っているかのようでした。まるで全てをあきらめているような目、そして自分は人間によって傷つけられたという怒りの目。自分たちの犯した罪の重大さに気が付いていないのは

私たち人間だけなのです。数日後回復した鳥の翼を見るボランティアの方々は、すでにこのことに気が付いていたようでした。私はそんな光景を見て、ボランティアに参加できたことを幸せに思いました。

## ◆人間の責任



宮田 祥子 (京都市東山区)

大勢の人達とただ一つの命を救うために汗を流すという充実感でいっぱいだった。

汚れた鳥が届いた途端に、その場がピリッと張りつめる。けれども穏やかである。私達はとてもいい状態で作業を進めることができた。

鳥を洗浄する一連の作業がこんなにも細かく、こんなにも丁寧だとは思ってもよらなかった。洗浄の際、羽が傷んでしまうという恐れもあったが、どうかもう一度元気な姿で野生に戻ってほしいという切なる願いでいっぱいだった。

はじめ私には野生の鳥の命を救うことができたという優越感があった。確かに嬉しいことは嬉しかった。でも、彼らは狭い囲いの中で目の輝きを失っていた。その時やっと、私は人間の犯した罪の大きさに気付いた。自分でも本当に勝手な生き物なんだとつくづく感じた。

こんな事故は二度と起こしてはいけない。原因である我々一人一人が責任を持つべきだ。そうすればもっとたくさんの命を救うことができたのに。

## ◆元気になってね



この 古園 由香 (奈良市)

重油汚染の鳥のリハビリという、見たこともやったこともないことを、私がするようになってから早3ヶ月が過ぎました。とにかくこんなことをするのは初めてのことなので、何もかもが試行錯誤でした。今でもそんな感じです。

私は、もともと動物に興味がありました。だから、毎日いろいろな動物に接することができ、とてもいい勉強をさせてもらったと思います。またセンターにきて、たくさんの人と知り合えたこともよかったと思います。

だけど、このような事故はもう二度と起きてほしくないと思います。センターには2羽の海鳥がまだ残っています。重油流出の事さえなければ、海の上で自由に泳いでいたはずですが、この子たちが海に帰れるようになるには、まだ長い時間と多くの手間がかかるのです。私は少ししかお手伝いできないけれど、鳥たちに元気になってもらえるよう精一杯がんばりたいと思います。

ボランティアの皆さんの献身的な行為により、多くの海鳥が大空に放されました。本当にご協力ありがとうございました。



当センターには、6月末現在も1羽の海鳥(ウミネコ)がいて、リハビリを行っている。

# 新緑のブナ林

文・写真 石本昭司 (大野市小矢戸 福井県自然観察指導員協議会会長)

## 1. 福井のブナ林

福井県の各地には、かつて天然のブナ林がかなり広い範囲にわたって存在していたと思われる。それが次々と伐採され、今では嶺南や丹南地方ではわずかに山頂付近に、奥越でも荒島岳、経ヶ岳、赤兎山、能郷白山などごく限られた範囲の山々に、原生の姿を残すのみとなった。太古の林とも思われるすばらしいブナ林の美しさを見て歩いた人々にとっては、何とも寂しい限りである。

ブナの木は雪に耐えて生育できる強い力を持った樹種である。そして、ブナの林は水源涵養林や防災保安林として、また、木材利用や大気中の二酸化炭素の同化、各種動物の生活の場として優れた機能をもっている。

## 2. 新緑のブナの森

躍動的なブナの新緑は実に美しく、心が洗われるような気持ちになる。雪国地方の大きな財産であり、未来に生きる人たちに是非残したい遺産でもある。

今年は積雪が特に少なく、春が早かった。山々の植物たちは慌ただしく葉を開き、開花の準備に追われたに違いない。ブナの林床に咲くカタクリの花、水辺に咲くミズバショウにあおられて、多くの落葉広葉樹は個性豊かな美しい緑の晴れ着を身につけ、強く生きることの喜びを賛美しているのであろう。新緑のこの表情を見たとき、多くの人々は長く立ち止まってその魅力に酔い浸るに違いない。林間に見られるタムシバの美しい白い花、ハウチワカエデの濃い赤紫色の花など、見る人にとってたまらない感情が湧いてくる。



刈込池の水面に映るブナの新緑と三ノ峰



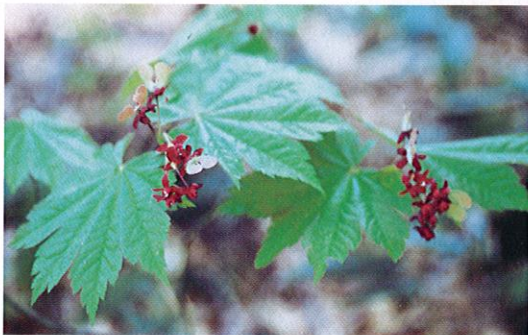
雪がとけるとブナの木は一斉に芽を吹き、その新緑は美しい

この自然の素晴らしい躍動の瞬間が、毎年私の心を引きつけ、山へと足を運ばせる。ブナの森と豊かな山の幸に囲まれて日々を送っている山村の人々の生活がうらやましく思われる。

今年も新緑の刈込池、倉ノ又山、荒島岳へ登ってみた。ブナの新緑は、平均気温6℃前後で始まり、標高100mを約4日で登るとも言われる。奥越では5月上旬頃が特に美しい季節である。晴れた日には部屋にこもらず、新鮮な空気、清らかな水、目の覚めるような早春の森の花を求めて出かけたいものである。だが、山の生き物には手を出さず、素晴らしい自然の財産をいつまでも保護するようにしたい。そうすれば、来年もきっと待っていてくれるであろう。

### 3. 森に咲く早春の花

暖かい春の風が山の谷間を吹き抜けるようになると、ブナの森は一斉に長い眠りから目覚める。雪解けとともに芽が膨らみ始めるブナの木々や、林床に注ぐ春の日差しをそっとのぞき見するように生長を始める草花は、私たちに大きな喜びさえ与えてくれる。この時期は、新緑のブナ林にとって四季を通して最も生命力の躍動を感じさせる季節である。その林間には、タムシバ・ハウチワカエデ・ムラサキヤシオ・オオカメノキ・マルバマンサク・サラサドウダン、林床には、カタクリ・ニリンソウ・ミヤマカタバミ・トクワカソウ・ミツバノバイカオウレン、また谷間では、エンレイソウ・サンカヨウ・ザゼンソウ・ミズバショウなどの花が咲き始める。それはその土地の気候条件に応じて、植物たちが精一杯生きようとする姿なのである。



ハウチワカエデ

一つの枝に雌雄の花が咲き、紫色がよく目につく



ムラサキヤシオ

早春のブナ林を代表する花で、花冠は紅紫色を少し際目立つ



サンカヨウ

中部以北のブナ帯に多く、大型の草本、秋の青い実は甘酸っぱい



谷間に咲くミズバショウの花

奥越の倉ノ又、取立山、加越山地に多い

## 自然とともに リーダーのプロフィール

### 松村 敬二 さん

(勝山市：ナチュラリストNo.619)

- ・福井県自然観察指導員協議会奥越ブロック幹事
- ・勝山城博物館館長



#### ●自然に興味を持つようになったきっかけは？

小さい頃は、勝山の豊かな自然環境の中で野山を駆けめぐって遊んでいました。師範学校時代、夏休みの宿題として植物標本や昆虫標本を提出したところ、先生にたいへん誉められたことがありました。また、昭和18年の夏休みには、友達3人と五泊六日で白山登山をしました。天気にも恵まれ、その時の豊かな自然に恵まれた強烈な印象が私の将来を決めたようです。

#### ●今まで観察した中で、一番印象に残っていることは？

昭和26年の夏、福井市郷土博物館建設の下準備として、刈込池から願教寺山、くろんぼ平から二の峰、三の峰の植物採集を四泊五日で実施したときのことです。今と異なり、上小池周辺の山々は鬱蒼たるブナ林で覆われていました。強力（ごうりき）を頼むほどの大がかりな採集会でしたが、息が詰まりそうなくらいに続いていたお花畑の景観は、今でも臉に焼き付いています。

#### ●自然観察で心がけていることは何ですか？

「山川草木悉皆成仏」山も川も草木にもみな仏がおられます。天も地も菩薩であり観音様です。決してむやみに採集したり傷めたりしないようにしています。また、採集したものはしっかり研究して、文化財と同じように大切に保管するようにしています。

#### ●福井の自然について感じることは？

自然保護を訴える人が増えてきました。しかし、もっぱら現在ある自然環境の保存という考えが多いようです。これからは、もっと積極的な態度として、今では少なくなった生物の育成・増殖といった行動を起こしていくべきではないでしょうか。そして、一人一人が額に汗して、積極的に自然保護活動に努めることが大切ではないでしょうか。

### 松村さんのおすすめ観察地

#### — 赤兎平の赤池湿原 —

白山山系が一望できる景勝地であるとともに、県内ただ一つの高層湿原です。

7月上旬にはニッコウキスゲの大群生が楽しめ、周辺の池塘では、高層湿原に生育するオオミズゴケ、ハクサンミズゴケ、アオモリミズゴケなどが観察できます。



# 「タガメ」を探しています

自然保護センターでは、タガメのような身近で希少な水生昆虫の存在とその保護の重要性を理解していただくために、これまで飼育展示やビデオ製作などの普及啓発事業と、タガメの里親制度による飼育増殖手法の確立と体制強化を実施してきました。さらに、野外でのタガメの採集にも努めてきましたが、県内では最近ほとんど採集されることがなく絶滅に近い状態です。しかし、タガメの里親制度の目標は、県内産のタガメを増殖し、生息適地へ放すことによる生息地の拡大です。よって今回、県内産のタガメを手に入れるために、多くの方のご協力をお願いいたします。

## ◆「タガメ」とは

○成虫 (写真1) ※実物大

日本最大の水生昆虫で、体長は48～65mmもあります。太くて丈夫なカマ状の前あしで、自分より大きな獲物も捕らえて体液を吸います。お尻の先には、5mm程度の尾のように見える呼吸管を持っています。

○1令幼虫 (写真2) ※実物大

体長11mm程度で、体に黒い縞模様があるので、一見して1令幼虫とわかります。

○2令幼虫 (写真3) ※実物大

2～3令の幼虫は体の色が緑色です。他の水生昆虫では、このような色の幼虫はいません。



写真1

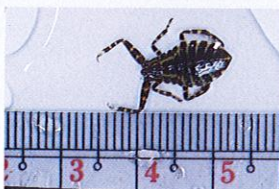


写真2



写真3

## 〈間違えやすい種類〉

タイコウチ：体長35mmで体の幅も狭く、

体とはほぼ同じ長さの長い呼吸管を持っています。

オオコオイムシ：体長25mmと小型で、カマ状の前あしは特別大きくありません。

## ◆採集時期

・6～10月 ※特に7～8月は幼虫が発生し数が多いのでチャンスです。

## ◆採集場所

- ・山際の湧き水がでるような水田とその周辺の小川やため池
- ・稚魚を育てている養魚池
- ・河川敷の中の大きな水たまり
- ・河川敷、小川、ため池近くの街灯（8月限定）

## ◆連絡先

・採集または最近の採集情報をお持ちの方はご一報を。

福井県自然保護センター 担当：松村 TEL 0779-67-1655 FAX 0779-67-1656

# ネイチャーフォト

## ハール・ボッツ彗星



↑ 1997年3月6日 04時57分～露出5分 撮影地：勝山市野向町 撮影者：宮川 祐一  
メ モ：流星出現 04時57分45秒頃



↑ 1997年3月8日 04時55分～露出4分  
撮影地：今立町八ツ杉天体観測所  
撮影者：小林 徹



↑ 1997年3月18日 04時36分～露出3分  
撮影地：今立町八ツ杉天体観測所  
撮影者：横川秀紀



↑ 1997年3月18日 撮影地：福井市 撮影者：峰田登喜良

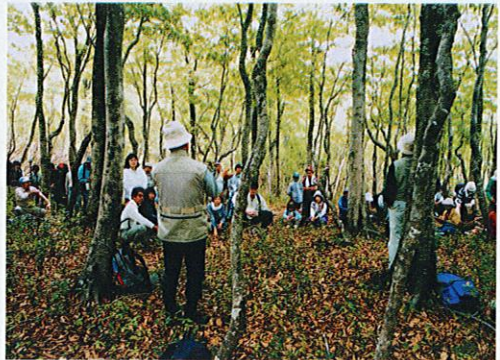
# センターだより

●早春の野草「カタクリ」  
～朝日町上糸生～ 4月12日 50名参加



予定した観察場所には、カタクリが足の踏み場がないほどに群生していました。しかし、今年はソメイヨシノをはじめいろいろな種で開花が早まる傾向があり、どの株もほぼ花が終わった状態でした。そこで、リーダーの小川さんに満開の頃の様子をビデオで見せてもらった後、同町内の白山神社に移動しました。これも神様のお導きでしょうか、カタクリの他、ニリンソウ、ジロボウエンゴサクといった春植物に出会うことができ、最後にはギフチョウまで姿を見せてくれました。

●ミズバショウを見よう  
～平家平～ 5月18日 50名参加



平家平は、昨年7月大野市が購入したことで話題を呼んだ場所です。本誌第20号の表紙で紹介したこともあって、募集定員50名をはるかに越える方から参加申し込みがありました。残念ながらお目当てのミズバショウは、ほとんど花期を終えていましたが、サンカヨウの純白の花やトチノキの巨木、新緑のブナ林が参加者を迎えてくれました。また、この観察会の様子は、NHKテレビで放映されました。

## 目次

表紙	写真：井部 極	1
重油流出に伴う海鳥類の救護活動	大迫 義人	2
海鳥の救護活動に携わって	御子柴友子ほか	4
新緑のブナ林	石本 昭司	6
リーダーのプロフィール（松村敬二さん）		8
「タガメ」を探しています		9
ネイチャーフォト（ヘール・ポップ彗星）		10
センターだより		12

☆この冊子は福井県自然保護基金によって作成されたものです。

FUKUI NATURE GUIDE しんゆう 森遊 第21号

Vol.8(1) 1997

発行日 1997年6月30日  
発行所 福井県自然保護センター  
〒912-01  
福井県大野市南六呂師169-11-2  
TEL 0779-67-1655  
FAX 0779-67-1656  
印刷 ㈱松浦印刷所